

■ 映像や動画制作で困ったことはありませんか？ ■

E-ラーニングのための、TV番組のようなWeb動画を作りたい

企業の人材育成や講習会を行っているA社から、都合で欠席した受講者がE-ラーニングとして後で見られるように、講義の様子をWeb動画にして閲覧できるようにしたいという要望がありました。具体的には、ただ講師が話す様子を映すのではなく、講師の資料やパワーポイントを、ちょうどTVのニュース番組や天気予報のように、背景に画像合成した動画を作りたいという希望でした。さらに講義の会場は毎回、さまざまな場所で行われるため、できれば当日現地で収録したいこと、また機器に予算はあまりかけられず、総予算を数十万円程度で実現したいとの相談でした。

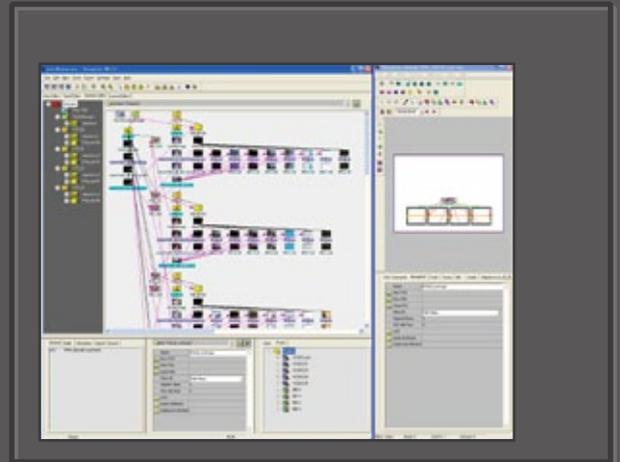
数万円の民生用ハンディカム2台と、最近需要が増えてきている十数万円の簡易型映像スイッチャー、映像記録と圧縮を同時に実現できる数万円のゲームレコーダー(映像録画機)など、それぞれ使用する機器の仕様や役割と、関連する映像技術について説明をした後、収録の現場には、講師の背景に青色、緑色等の無地で大きな布を準備することで映像合成が可能なこと等を伝え、これらを活用した持ち運び可能な収録システムを設計、提案した結果、簡易・移動型合成スタジオとして、実際に運用や映像制作が可能になりました。

また併せて、業務での利用を前提とした映像制作では、音声を明瞭にすることが重要であることも伝え、今回は実運用を考えて収録専用ワイヤレスマイクを講師に使用することをすすめました。このケースでは毎回会場が変わるため、想定される収録会場の近隣で、すでに使用されているマイク用電波との混線を避けるとともに、1回の講義の連続収録時間が2時間以内であることから、数万円で購入できる民生用機器のBluetoothタイプのワイヤレスマイクの使用を提案し、それらについても実現しました。

DVD-Video制作(プレス)時の課題解決をしたい

映像制作会社であるB社は、他社と共同で広範囲のロケ地をめぐる比較的大きな番組制作をしましたが、それらをDVDタイトル化するに当たり、プレス(量産)業者や販売関係者から、使用する映像圧縮ソフトの指定やデータエラーについて、B社が日常的に対応している手法では実現できない内容の要望があり、困っていました。

汎用のソフトウェアを活用しているだけでは解りにくい、DVD-Videoの詳細な規格や仕様の内容、制作技術などについて説明するとともに、エラーの出にくい制作方法の実例や、当センターで保有する業界でも実績のある「プレスデータ作成業務専用ツール」などを使用することで、共同制作をされている各社への同意と共に、量産の関係業者に対しても納得のいく説明ができ、販売用DVDの工場プレスと商品化が実現しました。



自社内で制作する映像にナレーションしてくれる人を探したい

映像機器の販売や設置をしているC社では、施工先等の顧客からの要望で、納品した機器で使用する映像の制作依頼を、社内で受けることがあります。その映像向けにナレーションをしてもらえ、できればプロか、同等の人を探していますが、今までC社には経験が無いので、その方法を教えてほしいという相談がありました。

ナレーションは、コマーシャル、ドキュメンタリーなど、制作する内容ごとに、適正はそれぞれ変わるので、男女、声のトーンや雰囲気、演技の必要なセリフの有無などについて、今回求められる仕様や詳細を聞き取りつつ、C社には、顧客にも同様にそれら要望について、改めてリサーチするよう促しました。

その上で、放送事業者やタレント事務所、アナウンス・声優学校などに照会をかけ、実績のある方々にボイスサンプルをご提供いただきました。収録時の拘束時間やギャラなどについても希望する範囲内で実現できるよう調整しつつ、今後C社の担当者にも慣れていただくために、作品ごとにイメージ合った人を選考するノウハウや、録音時の進め方、マネジメントなどについてもレクチャーしました。



展示会で使用する自社製品の映像を社内で制作したい

主に工場のラインで使用する生産設備を製造しているD社では、自社製品のほとんどは顧客からのオーダー品です。ただし出荷した後、社内には図面しか残らないので、展示会やホームページ等で映像を使用した紹介をしたいが、一般の社員が撮影したものでは営業に使用できるレベルの映像が残せず困っていました。だからといって毎回出荷の度に専門業者に依頼できる予算は無く、できれば社内で何とかしたいとの相談を受けました。

最終的な完成映像は、専門の映像制作会社に構成や編集をお願いするとしても、毎回出荷時の製品の稼働映像は、社員が自ら撮影できるようにシステム化し、映像素材もデータベース化することを提案しました。社内では出荷前の仮組立は、いつも同じ場所で行われるため、その場からあらかじめ必要な照明や三脚、小型カメラなど撮影設備を備え、常設的な撮影スタジオのように改良してはどうかと提案しました。

撮影手法としては、動いているものを効果的に見せるためには「カメラは固定して動かさず、編集しやすい映像を撮影する」こと、また編集時にカットの時間調節がしやすいように録画スタート・ストップの前後を15秒程度余分に長く録画すること、機械が稼働する「音」が必要ならば、カメラ内に付属のマイクはなるべく使用せず、例えば会議室で使用しているマイクなどでも良いので、別途用意して録音する(撮影に最適なカメラの設置場所が、必ずしも録音に最適な場所ではない)ことなどを周知することで、誰もが失敗しない映像素材の撮影ができるようになりました。